

3. 無薬飼養ブロイラー農場で発生した壊疽性皮膚炎対策指導の取り組み

宇佐家畜保健衛生所・1) 大分家畜保健衛生所

○梅木芳貴・渡邊春香・長谷部恵理

病鑑 岡田彰三¹⁾・病鑑 榎園秀平¹⁾・病鑑 梅田麻美¹⁾

【はじめに】

壊疽性皮膚炎とは *Clostridium septicum* (*Cl. septicum*) 等の感染により皮膚病変を伴い急死する疾病であり、多くは肉用鶏(4~8週齢)で発生、死亡率は60%に達することもあることから農場に大きな損失となる。今回2025年2~4月にかけて肉用鶏2農場で *Cl. septicum* による壊疽性皮膚炎が発生し、その対策および指導を行ったので概要を報告する。

【農場概要】

① A農場:肉用鶏27,600羽飼養、開放鶏舎4棟、戻し堆肥方式。②B農場:肉用鶏44,800羽飼養、開放鶏舎6棟、戻し堆肥方式。なおA農場、B農場は家族経営の系列農場。

【発生概要及び病性鑑定】

① A農場:2025年2月から3月にかけて2鶏舎(A-1,2号鶏舎)で死亡増加。3月3日にA-1号鶏舎死亡鶏4羽(39日齢)、3月10日にA-2号鶏舎死亡鶏4羽(46日齢)、計8羽について病性鑑定実施。剖検では皮下に赤褐色の漿液性滲出物、皮下スワブから *Cl. septicum* 分離(7/8羽)、主要臓器から *Cl. septicum* 分離(5/8羽)。病理学的検査では大型の桿菌を伴う皮下組織の水腫、骨格筋の変性・壊死(6/8羽)、諸臓器の実質・血管内に大型の桿菌(7/8羽)を認め、*Cl. septicum* による壊疽性皮膚炎(6/8羽)と診断。

② B農場:2025年4月に2鶏舎(B-1,2号鶏舎)で死亡増加。4月3日B-1号鶏舎死亡鶏4羽(44日齢)について病性鑑定実施。皮下スワブから *Cl. septicum* 分離(4/4羽)、主要臓器から *Cl. septicum* 分離(3/4羽)。剖検および病理学的検査では全羽でA農場と同様の皮下組織の病変を認めたため、*Cl. septicum* による壊疽性皮膚炎(4/4羽)と診断。

【対策】

(1)オールアウト後の鶏舎内消毒法を従来法から芽胞菌に有効なグルタルアルデヒド系消毒薬を逆性せっけんと混合した発泡消毒に変更、(2)戻し堆肥については戻す量を通常時の半量とし不足する敷料は未発生鶏舎から搬入するよう指導。

しかし、2農場とも次ロットでも死亡増加、A農場は病性鑑定で壊疽性皮膚炎と診断、B農場は簡易解剖で壊疽性皮膚炎が疑われたため、(3)オールアウト後の鶏舎内清掃の徹底を指導したところ、次々ロットでの死亡増加は認められなかった。

【まとめ及び考察】

今回の2農場は、過去にも *Cl. septicum* による壊疽性皮膚炎が発生。*Clostridium* 属菌は芽胞菌であり環境抵抗性が強いことから、再発防止のためには敷料の全更新が理想的である。しかし、全ての堆積鶏糞を受け入れ可能な施設が見つからないことから、代替法として鶏糞堆肥化行程で発酵促進剤を使用し各種病原体量を低減することを検討中である。今後も引き続き敷料の全更新を行えないか検討しつつ、堆積鶏糞の適切な堆肥化处理、鶏舎内洗浄消毒の徹底といった一般的な発生予防対策の指導を継続していきたい。